

平成15年度環境保全活動報告書

日本黒鉛工業株式会社

瀬田工場

ご あ い さ つ

弊社の平成15年度における環境保全活動は、環境保全施策の一環として「KESマネジメントシステムステップ2」の認証取得し、今日まで運用をして参りました。

以下に報告しております通り今年度はマネジメントシステムによる目標を設定し、目標達成度100%を目指し従業員一丸となって環境負荷低減を計って参りました。

その成果として、電気エネルギーは、平成11年度比86.7%と顕著な原単位削減を果たし、産業廃棄物の削減・紙の使用の削減・水質汚染物質の削減・アンモニアの使用量削減は目標を大きくクリアし、グリーン購入においても事務用品の80%はエコ商品に置き換える事が出来ました。

現在、環境保全活動の更なるレベルアップを目指しISO-14001の認証取得を目指し、マネジメントシステムを構築中であります。

ISO-14001は2004年度中の認証取得を目指し現在努力致しております。

終わりに、

日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場としては、豊かな自然に恵まれた琵琶湖を背景に控えているなか、「環境との調和」を基本理念として、積極的な環境保全活動の取り組みを推進していきます。

日本黒鉛工業株式会社
取締役瀬田工場長 石川幸治郎

目 次

- 1) 会社概要
- 2) 日本黒鉛工業株式会社環境方針
- 3) 瀬田工場環境宣言
- 4) 工場環境マネジメントシステム
- 5) 環境保全活動の経緯
 - 5)－1省エネルギー
 - 5)－2コピー用紙使用量の削減
 - 5)－3産業廃棄物の削減
 - 5)－4排水浮遊物質の削減
 - 5)－5化学物質の使用量削減
 - 5)－6グリーン購入の推進
 - 5)－7環境との調和
- 6) 問い合わせ先・連絡先

以上

1. 会社概要

社名：日本黒鉛工業株式会社

所在地：大津市唐橋町9番22号

設立：大正8年3月29日

資本金：9000万円

従業員：258名（平成14年3月末）

工場

瀬田工場：大津市栗林町5番1号

石山工場：大津市唐橋町9番22号

製造品目：乾電池用・鉛筆芯用・粉末冶金用黒鉛粉

末・鍛造用・ダイカスト用潤滑剤・各種導電

塗料・フレキ回路基板・各種メンブレンスイ

ッチ・液晶表示管用コネクタ―他

日本黒鉛工業株式会社環境方針

環境理念

当社は、豊かな自然環境に恵まれた母なる湖、琵琶湖を背景に控えているなか、地球環境の保全が人類共通の重要課題の一つとして位置づけ「環境との調和」を基本理念として、黒鉛粉末・潤滑離型剤・電子部品等の製造をしています。「豊かな自然を次世代へ」を掲げ、積極的な環境保全活動の取り組みを推進します。

環境方針

- 1) 事業活動に関わる環境影響を常に意識し、環境に関する法令・協定等を遵守すると共に管理水準の向上、環境汚染の防止を推進し環境管理システムの継続的な改善を図ります。
- 2) 環境影響低減のための重点取り組み事項を下記に示します。
 - (1) 天然資源の有効利用とエネルギー等の使用量削減を推進する。
 - (2) 環境負荷物質の発生を抑制し、環境汚染の未然防止を推進する。
 - (3) 産業廃棄物の減量化と分別回収による資源のリサイクルを推進する。
 - (4) 環境に配慮した製品の開発を推進する。
- 3) 環境保全の推進達成のため全従業員をあげて活動に取り組みます。
- 4) 本方針は、全従業員に周知するとともに一般にも公開します。

2003年4月1日

日本黒鉛工業株式会社

代表取締役社長 渡邊頼光

環境宣言

日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場

基本理念

日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場は、地域環境の保全が人類共通の重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

方針

日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場は、黒鉛の精錬・粉碎から塗料化の製造・販売に係わるすべての事業活動とこれからの製品の環境影響を低減するために、次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地域環境との調和を目指します。

1. 当社の活動・製品又はサービスに係わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進すると共に、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当社の活動・製品又はサービスに係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守します。
3. 当社の活動・製品又サービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - 1) 省エネルギーに取り組みます。
 - 2) 省資源に取り組みます。
 - 3) 環境汚染物質を削減します。
 - 4) 産業廃棄物の削減を推進します。
 - 5) グリーン購入を推進します。
4. 一人一人が環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境宣言を全従業員に周知すると共に社外へも公表します。
5. アジェンダ21 おおつ「大津環境フォーラム」のパートナーシップに基づく地域の環境改善活動に参画します。

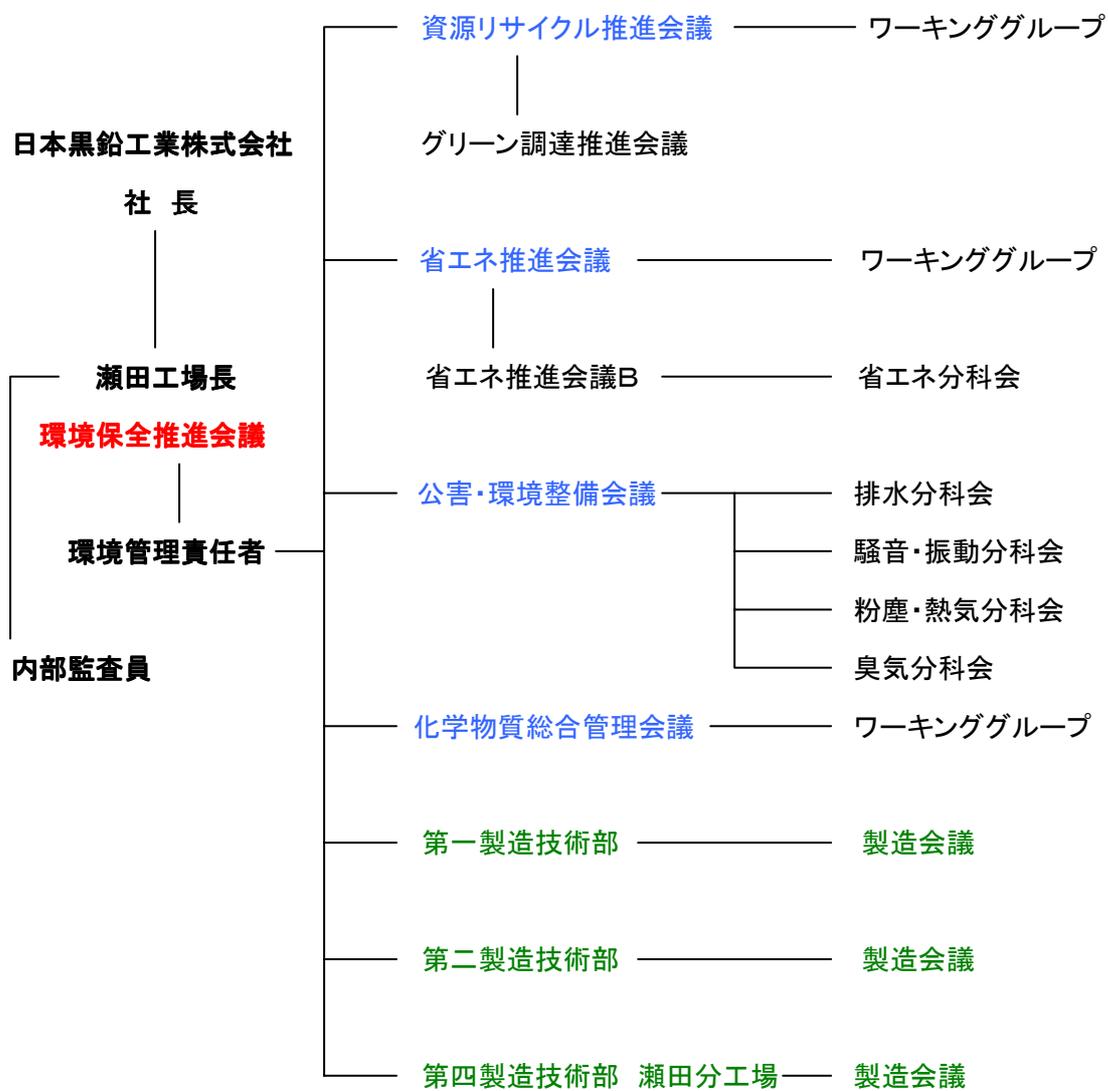
上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境マネジメントシステムを推進します。

制定日 2003年6月1日

日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場

取締役工場長 石川 幸治郎

3. 工場環境マネジメントシステム



環境保全推進会議: 工場長を議長とし、工場全般の環境保全に関わる方針・計画を立案する。

資源リサイクル推進会議: 廃棄物の発生抑制、リサイクルに対する方針・計画の立案と実行を指示し目標の達成を検証する。

グリーン調達推進会議: 工場グリーン調達を推進し、目標の達成を検証する。

省エネルギー推進会議: エネルギー管理士を議長とし、省エネに関する方針・計画の立案と実行を指示し目標の達成を検証する。

公害・環境整備会議: 各工場内環境の改善及び公害の未然防止に対する方針・計画の立案と実行を指示し目標の達成を検証する。

化学物質総合管理会議: 指定化学物質の管理削減に対する方針・計画の立案と実行を指示し目標の達成を検証する。

ワーキンググループ: 各推進会議によって立案された計画を実行に移してその成果を上げる為に設置する。

分科会: 各推進会議によって立案された計画を分科会チーフを中心に実行に当たりその成果を上げる為に設置する。

各製造部: 環境改善目標の実行実務を担当する。責任者は各製造部長

4. 環境改善目標の設定

2003年12月1日にKESステップ2を認証取得しました。今年度の環境改善目標の概要を下記の項目で設定し、各部目標達成の活動を開始しました。

No	重点課題	年度目標(2003年度)	(1) の配慮事項
1	省エネルギー 省資源	使用電力量を原単位1%削減(第一・第二・第四製造技術部) (2002年度生産数量比) コピー用紙の使用量3%削減(第二製造技術部) (2002年度年間使用枚数比)	a, b b
2	汚染物質の削減	排水浮遊物質の10%削減(第二製造技術部) (2002年度生産数量比) アンモニア・アクリル酸の10%削減(第一製造技術部) (2002年度生産数量比)	c a, c
3	産業廃棄物の削減	産業廃棄物の発生量5%削減(第一・第二製造技術部) (2002年度生産数量比)	a, b
4	グリーン購入の推進	事務用品のエコ率を80%とする (第二製造技術部)	b
5	地域社会との調和	工場周辺の美化活動を実施(溝清掃1回/年・除草2回/年等)(第一・第二・第四製造技術部) 県・市などの環境事業への積極参加	e

5. 環境保全活動の経緯

5) -1 省エネルギー(温暖化ガスの排出削減)

弊社においては、2001年4月に省エネ推進会議を発足して以後、対前年度比年間原単位1%以上の電力削減を目指して活動を継続しております。

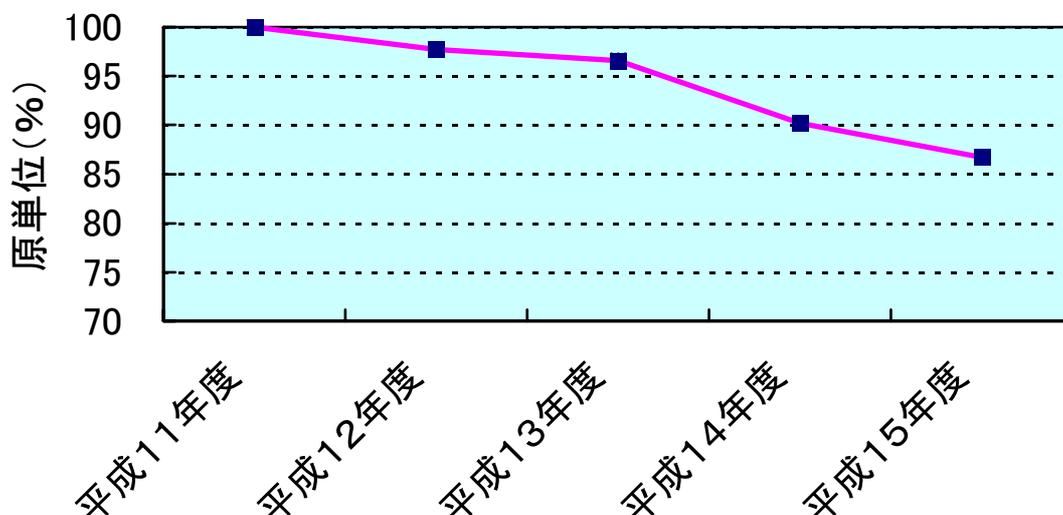
今年度は前年比96.1%(-3.9%)の実績を得ました。平成11年度比86.7%(13.3%)の原単位削減が達成できました。

各年度別原単位推移

	対前年度比原単位				
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
原単位推移	100	97.7	98.9	93.4	96.1

使用電力量の原単位推移(平成11年度を100とする)

電気使用量原単位推移

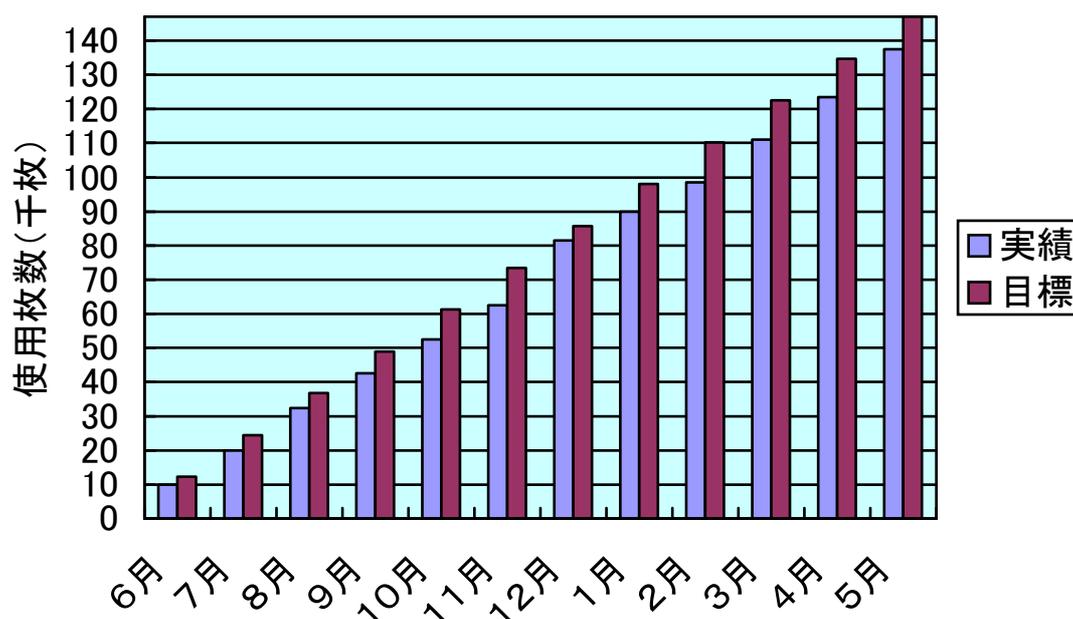


5) -2 コピー用紙の使用量の削減

前年度はコピー用紙を152000枚使用しました。省資源を目指し環境改善目標前年比-3%(目標値147000枚)を掲げグリーン調達推進会議が啓蒙を行い、両面使用の実行と節約に努めました。

コピー用紙使用量の推移
(平成15年6月～平成16年5月)

コピー紙の使用量推移



目標値(147000枚)に対して137500枚と目標達成率106.9%であり適合性評価は良好であった。

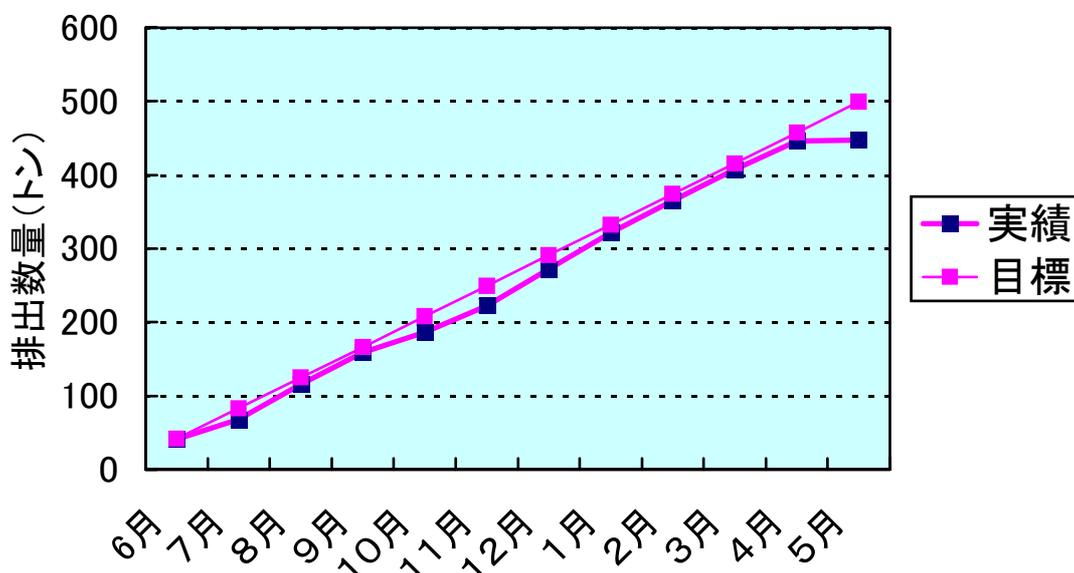
5) -3 産業廃棄物の削減

弊社においては黒鉛の精錬・粉碎工程からの汚泥・分散体製造時の洗浄排水・フレコンバック等の廃プラスチックが廃棄物の主なものであり、数値目標を立て2001年4月に資源リサイクル推進会議を発足して発生の抑制とリサイクルを推進しております。

今年度は前年実績525トンの実績に対し、5%削減を目標(499.5トン)に掲げ削減しました。

産業廃棄物削減推移
(平成15年6月～平成16年5月)

廃棄物排出数量推移



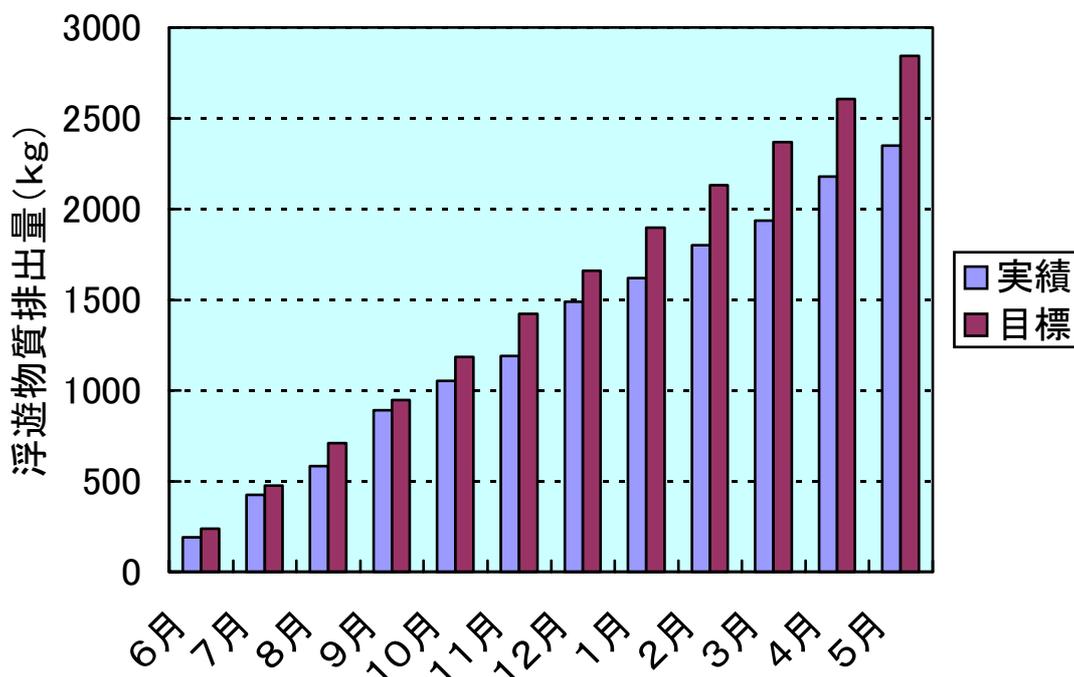
目標値(499.4トン)に対して447.5トンと目標達成率111.6%であり適合性評価は良好であった。

5) - 4 排水浮遊物質の削減

大津市条例の排水浮遊物質規制値70mg/Lは充分にクリアしているものの、更なる汚染物質を削減すべく公害環境整備会議排水分科会が具体的方策を立て今年度目標を前年度排出量3162kgの10%減2844kgとした。

水質汚染物質排出削減推移
(平成15年6月～平成16年5月)

水質汚染物質の排出量推移



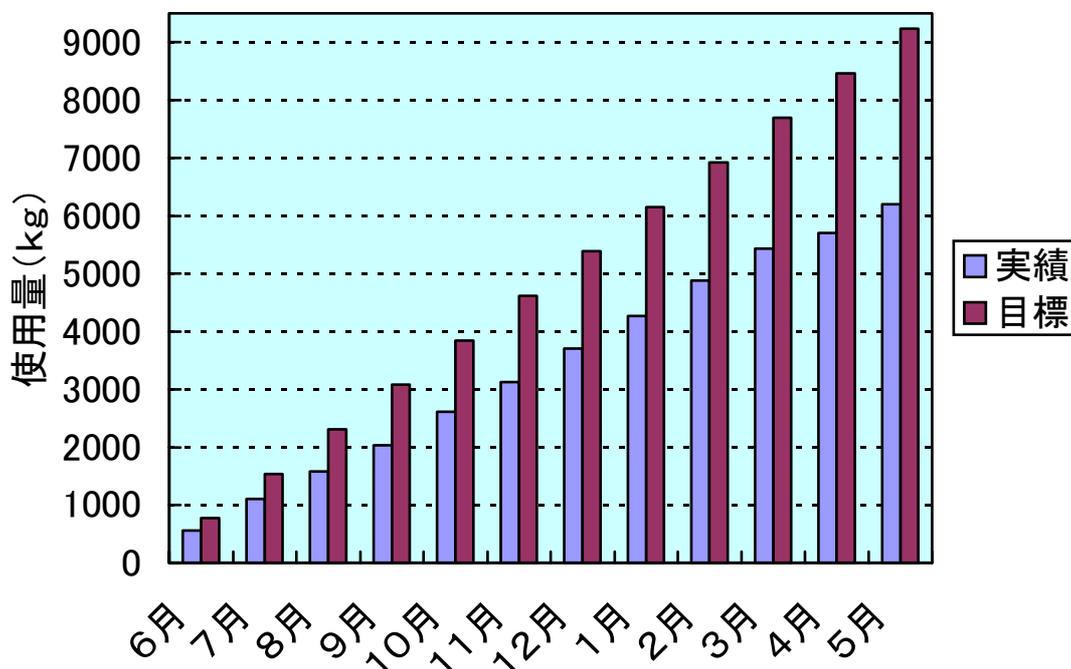
目標値(2844kg)に対して2350kgと目標達成率121.0%であり適合性評価は良好であった。

5) -5 化学物質の使用量削減

その他の環境に排出している化学物質の内、大気汚染防止法で指定されているアンモニアとPRTR法で指定されているアクリル酸について化学物質総合管理会議が具体的方策を立て今年度目標を前年使用量実績10258kgの10%減の9232kgとした。

アンモニア水・アクリル酸使用量削減推移
(平成15年6月～平成16年5月)

アンモニア水・アクリル酸の使用量推移



目標値(9232kg)に対して6196kgと目標達成率149.0%であり適合性評価は良好であった。

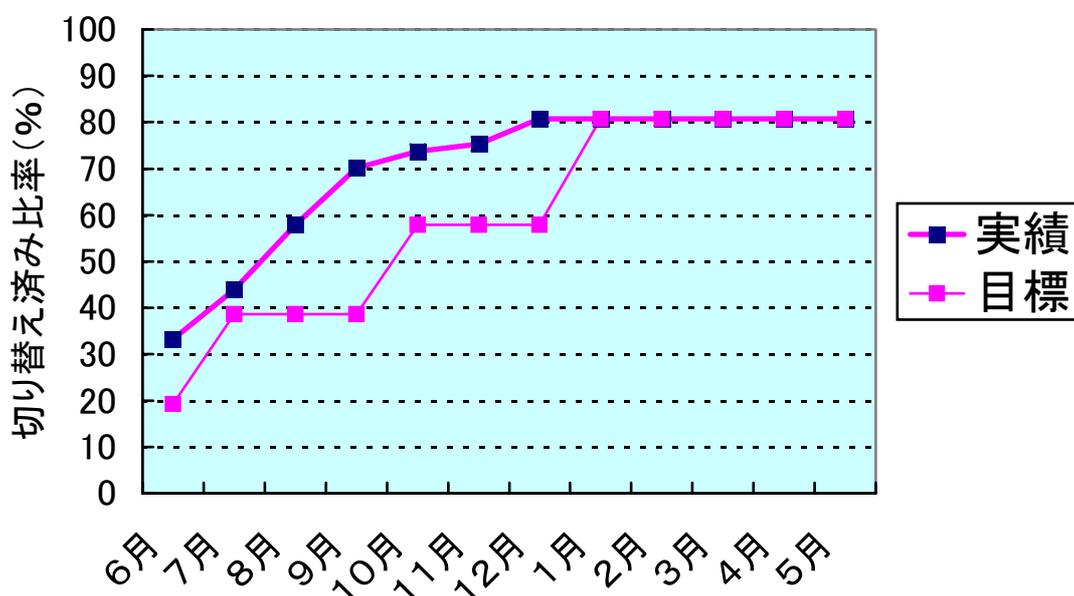
5) -6 グリーン購入の推進

グリーン購入法が施行され、弊社においても環境に配慮した物品を購入すべくグリーン調達推進会議が具体的方策を立ててグリーン調達を推進する事とした。

今年度の目標として事務用品のエコ率(エコマーク商品の割合)を80%とした。(前年度事務用品は57品目使用している為、46品目をエコマーク商品に切り替える)

エコマーク商品への切り替え割合推移
(平成15年6月～平成16年5月)

エコマーク商品切り替え推移



目標値(46品目)に対して46品目と目標達成率100.0%であり適合性評価は良好であった。

5) -7 環境との調和

工場周囲近隣の環境整備を年に3回実施を目標とし、周辺環境の改善に努めました。

7月度には、県の環境週間行事に賛同し工場周辺の溝清掃と草刈りを実施した。夏期休暇・ゴールデンウィーク前には工場周辺の草刈りを実施しました。

別紙参照して下さい。

6 .

問い合わせ連絡先

日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場

環境管理責任者:杉本久典

住所:大津市栗林町5番1号

電話:077-545-3375

Fax:077-543-1167